

fiaf

国際フィルム・アーカイヴ連盟=FIAFは
映画の保存を目的とする国際団体です。
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

Fukuoka City Public Library Movie Hall

Ciné-là

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

5

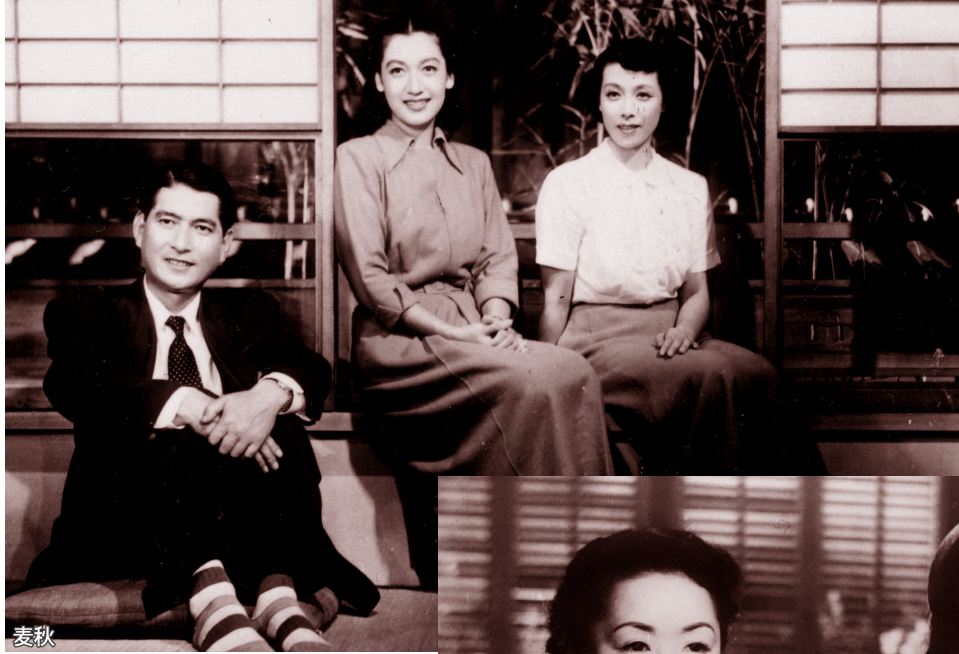
May.2015

シネラ・ニュース No.216

特別企画

カラーデジタル復元版の4作品を含む、小津安二郎監督作品の特集。

小津安二郎監督特集



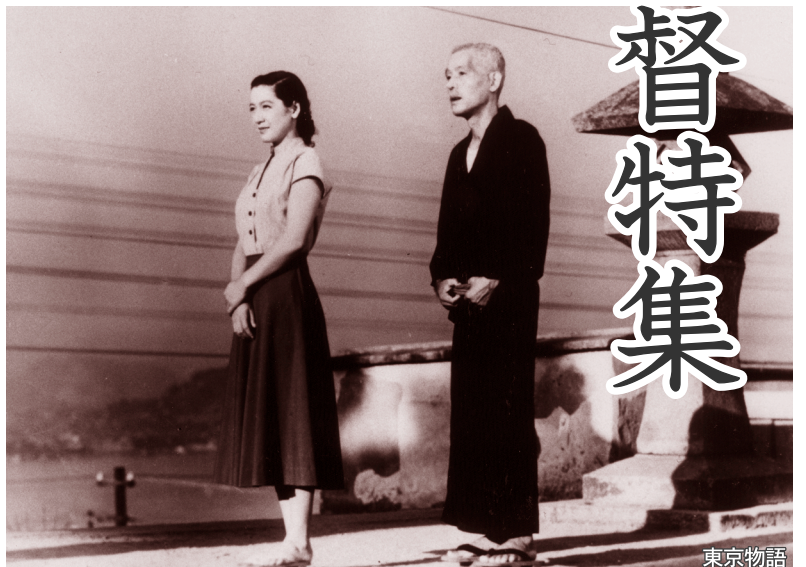
麦秋



©東宝
宗方姉妹



晩春



東京物語

小津安二郎 監督特集

カラーデジタル復元版の4作品を含む、
小津安二郎監督作品の特集。

会期：4月29日(水・祝)
～5月30日(土)
※休館日・休映日除く
観覧料：600円(大人)
500円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)
※定員制。各回入替制。
※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※障がい者の方及び福岡市在住の65歳以上の方は
300円。(手帳の呈示が必要です。)
※「わの会」会員は300円。(会員証の呈示が必要です。)

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo



©東宝

10【日】 11:00
21【木】 11:00

16【土】 14:00
あめ! 観

宗方姉妹

宗方忠親はガンであり、京都で静養の日々だった。彼には二人の娘がおり、長女・節子の夫・三村が失業しているため節子は銀座のバーで働き、二女満里子も手伝っていた。節子は結婚前田代という恋人がいたが、行き違いで結婚できなかった。節子と田代が今も愛し合っている事を知った満里子は、神戸に住む田代を尋ねる。田代は銀座のバーを訪れるが、節子は経営に行き詰っており、田代に借金を頼むのだった。田代は快諾するが、それを知った三村は面白くない。

小津の監督第43作で、大佛次郎の小説を映画化したもの。「宗方」はムネカタと読む。小津が初めて松竹以外の会社で作った作品で、当時の日本映画最高の予算で製作している。「晩春」と「麦秋」の間に位置する作品だが、小津らしい遊びのあるコミカルな調子を持ちながら、名作の味わいを持つ絶妙な作品となった。現代的な妹を演じる高峰秀子と古風な姉を演じる田中絹代の対比は見事である。特に満里子は最初から高峰秀子を予定して脚本が書かれており、素晴らしく魅力的である。

1950年/35ミリ/モノクロ/112分/新東宝＝東宝

監督：小津安二郎
出演：田中絹代
高峰秀子

9【土】 11:00
30【土】 11:00

長屋紳士録



©1947 松竹

占師の田代は親とはぐれた少年・幸平を連れて職人・為吉の家に帰って来る。困った二人は荒物屋のおたねに幸平を押し付ける。いやいや幸平の面倒を見るおたねだが、次第に情が移って来る。小津の監督第40作で、戦後最初の作品。焼け跡が生々しい東京で撮影されており、戦争孤児と長屋物を合わせたような内容だが、小津らしいコミカルな場面が随所に見られる。

1947年/35ミリ/モノクロ/72分/松竹

監督：小津安二郎
出演：飯田蝶子
青木放屁

20【水】 14:00
29【金】 14:00

風の中の牝鶏



©1948 松竹

雨宮時子は夫の復讐を待ちながら幼い子を育てていた。ある日子供が病気になる、入院費を払えない時子は一度だけ売春をする。そして夫の修一が帰って来る。そして時子が売春をしたことを知り、許せないのだった。小津の監督第41作。本作のアイデアは志賀直哉の「暗夜行路」から得たもの。小津作品では唯一ともいえる激しい暴力シーンがあり、田中絹代は美人スターから演技派女優へと脱皮する。

監督：小津安二郎
出演：佐野周二
田中絹代

1948年/35ミリ/モノクロ/83分/松竹

17【日】 11:00
29【金】 11:00

晩春



大学教授の曾宮周吉には一人娘の紀子がいた。紀子の結婚を心配する周吉は助手の服部と縁談を組もうとするが失敗する。父親が一人暮らしになることを心配する紀子を納得させるため、周吉は嘘の再婚の話をする。そして佐竹との縁談を進めるのだった。小津の監督第42作。本作から脚本家野田高梧とのコンビが始まり、原節子がヒロインとなった。以後の小津作品の基調を決定づけた作品として本作は特に重要である。

監督：小津安二郎
出演：笠 智衆
原 節子

1949年/35ミリ/モノクロ/108分/松竹

2【土】 14:00
22【金】 14:00

麦秋



問宮紀子は東京の会社で働く28歳のOL。ある日紀子は伯父から縁談を持ちかけられる。そして会社の上司からも見合いを勧められる。問宮家は紀子の結婚を巡ってちょっとした騒ぎとなってしまふ。小津の監督第44作。小津は本作について「輪廻」や「無常」といったものを描きたいと語っている。「晩春」「東京物語」と並ぶ小津の代表作であり、小津監督の最高傑作という評価もある作品。

監督：小津安二郎
出演：原 節子
笠 智衆

1951年/35ミリ/モノクロ/125分/松竹

6【水・休】 11:00
28【木】 11:00

お茶漬の味



©1952 松竹

佐竹は裕福な家の娘・妙子と結婚し会社で出世していた。しかし妙子は夫を大切にせず友達と遊び歩く。そして佐竹の些細な事に腹を立てかつてに家を出てしまふ。その日佐竹は会社から海外出張を命じられる。小津の監督第45作。妙子が本当の夫婦とは何かに気付くまでが本作の物語だが、競輪やパチンコなど当時の風俗に関する議論があるのが興味深い。

監督：小津安二郎
出演：佐分利信
小暮実千代

1952年/35ミリ/モノクロ/116分/松竹

6 【水・休】 14:00 15 【金】 14:00
21 【木】 14:00 30 【土】 14:00

東京物語



尾道に暮らす平山周吉ととみの夫婦は、独立した子供たちに会うために東京にやってくる。長男の幸一は医者で仕事に忙しく、長女の志げも美容院を経営しており忙しい。親身に二人の面倒を見るのは、戦死した二男の妻紀子だった。「親と子の成長」そして「家族制度の崩壊」をテーマとし小津の代表作となった監督第46作。世界中に本作のファンは多く、日本映画史だけでなく、世界映画史の中に記される傑作である。

1953年／35ミリ／モノクロ／136分／松竹

監督：小津安二郎
出演：笠 智衆
原 節子

3 【日・祝】 14:30 24 【日】 14:00
28 【木】 14:00

早春



会員の杉山正二は結婚8年目。子供を亡くして以来妻の昌子とは倦怠期だった。ある日杉山は通勤仲間と一緒にハイキングに行き、若い女性千代と知り合い、デートするようになる。小津監督の第47作。小津は52年に鎌倉に転居し、脚本家野田高梧の家に出入りする若者たちとの交流から生まれた作品。一種の「サラリーマン」ものだが、家族の崩壊と再生という内容では「東京物語」とも通じている。

1956年／35ミリ／モノクロ／144分／松竹

監督：小津安二郎
出演：池部 良
岸 恵子

3 【日・祝】 11:00 9 【土】 14:00
27 【水】 14:00

東京暮色



杉山は銀行の監査役。ある日長女の孝子が子供をつれて帰って来る。二女の明子は、不良学生と付き合っただけで妊娠しており、誰にも言えずに墮胎を考える。小津の監督第48作。本作の家族は救いようがないほどバラバラである。人間関係は当時ヒットした「エデンの東」を参考としているが、小津作品の中ではかなりドラマチックな物語で、脚本の野田高梧と小津の間でしばしば意見が対立した。

1957年／35ミリ／モノクロ／141分／松竹

監督：小津安二郎
出演：原 節子
有馬稲子

4/29 【水・祝】 11:00 5 【火・祝】 14:00
13 【水】 14:00

彼岸花 【デジタル復元版】



平山は会社の重役で、娘の節子は適齢期を迎えていた。平山は節子に内緒で結婚話を進めるが、ある日突然節子の会社の同僚の谷口が節子と結婚したいと申し出る。平山は節子が親に内緒で恋人がいたことを怒り、結婚は認めないという。原作は里見淳だが、映画化を前提として小説を執筆したもの。小津の監督第49作で最初のカラー作品。ドイツのグッフェカラーが採用され、小津作品らしい渋い色合いを出している。

1958年／35ミリ／カラー／118分／松竹

監督：小津安二郎
出演：佐分利信
田中絹代

4/29 【水・祝】 14:00 5 【火・祝】 11:00
14 【木】 11:00

お早よう 【デジタル復元版】



©1959 松竹 国立近代美術館フィルムセンター収蔵作品

東京郊外の新築住宅地。林家には実と勇の小学生の兄弟がいた。近所の家にテレビがあり、二人は見に行きたいのだが親に叱られる。テレビがほしいとだだをこねる二人は、とうとう口をきかないというストライキを始める。小津の監督第50作。サイレント期の名作「生まれてはみたけれど」を思わせるユーモア溢れる作品。母親たちが噂話でうろろする長屋のような住宅も面白い。

1959年／35ミリ／カラー／94分／松竹

監督：小津安二郎
出演：佐田啓二
久我美子

1 【金】 11:00 4 【月・祝】 14:00
15 【金】 11:00

秋日和 【デジタル復元版】



©1960 松竹 国立近代美術館フィルムセンター収蔵作品

三輪秋子は夫に先立たれ、娘のアヤ子と暮らしていた。法事の時夫の友人たちからアヤ子の縁談の話がでる。しかしアヤ子は母を一人にすることが心配だった。そのため今度は秋子の再婚話が持ち上がる。小津の監督第52作で原作は作家の里見淳が「晩春」を下敷きにして小説を書いたもの。「晩春」の父親が母親に代わっており、秋子とアヤ子の結婚話が同時に進行するが、悪友3人の登場など「晩春」とはかなり違った印象を残す。

1960年／35ミリ／カラー／125分／松竹

監督：小津安二郎
出演：原 節子
司 葉子

2 【土】 11:00 13 【水】 11:00
17 【日】 14:00

小早川家の秋



©東宝

関西の造り酒屋の主人小早川万兵衛は、最近出かけることが多くなる。不審に思った番頭は後をつけ、昔馴染みの女つねと会っていることを突き止める。そんな万兵衛の気がかりは夫に先立たれた娘・秋子とまだ独身の紀子の縁談だった。小津の監督第53作。全編が関西を舞台とする唯一の作品。宝塚映画の創立十周年記念映画であり、森繁久弥など東宝のオールスターが出演している。

1961年／35ミリ／カラー／103分／宝塚映画＝東宝

監督：小津安二郎
出演：中村鴈治郎
原 節子

1 【金】 14:00 4 【月・祝】 11:00
14 【木】 14:00

秋刀魚の味 【デジタル復元版】



©1962 松竹 国立近代美術館フィルムセンター収蔵作品

平山周平には娘と息子がいた。娘の路子は24歳で縁談話がある。しかし妻を亡くし身の回りの世話を路子に頼ってきた周平には踏ん切りがつかない。しかし娘の将来のため縁談を受け入れるが、急な話に路子は怒ってしまう。小津監督の第54作で本作が遺作。「晩春」のリメイクともいえる内容だが、団地に住む長男夫婦など現代的な内容が盛り込まれている。若下志麻がヒロインに抜擢され、原節子に劣らぬ花嫁姿をみせる。

1962年／35ミリ／カラー／113分／松竹

監督：小津安二郎
出演：若下志麻
笠 智衆



29	水祝	11:00	彼岸花	14:00	お早よう
30	木		休館日		
5/1	金	11:00	秋日和	14:00	秋刀魚の味
2	土	11:00	小早川家の秋	14:00	麦秋
3	日祝	11:00	東京暮色	14:30	早春
4	月祝	11:00	秋刀魚の味	14:00	秋日和
5	火祝	11:00	お早よう	14:00	彼岸花
6	水休	11:00	お茶漬の味	14:00	東京物語
7	木		休館日		
8	金		休映日		
9	土	11:00	長屋紳士録	14:00	東京暮色
10	日	11:00	宗方姉妹	14:00	麦秋
11	月		休館日		
12	火		休映日		
13	水	11:00	小早川家の秋	14:00	彼岸花
14	木	11:00	お早よう	14:00	秋刀魚の味
15	金	11:00	秋日和	14:00	東京物語
16	土	11:00	お茶漬の味	14:00	宗方姉妹
17	日	11:00	晩春	14:00	小早川家の秋
18	月		休館日		
19	火		休映日		
20	水		14:00	風の中の牝鷄	
21	木	11:00	宗方姉妹	14:00	東京物語
22	金	11:00	長屋紳士録	14:00	麦秋
23	土	11:00	風の中の牝鷄	14:00	晩春
24	日	11:00	麦秋	14:00	早春
25	月		休館日		
26	火		休映日		
27	水		14:00	東京暮色	
28	木	11:00	お茶漬の味	14:00	早春
29	金	11:00	晩春	14:00	風の中の牝鷄
30	土	11:00	長屋紳士録	14:00	東京物語

31 日 自主上映／福岡映画サークル協議会例会

小津安二郎／略歴

1903年東京都生まれ。5人兄弟の次男で、父は深川で肥料問屋を営んでいた。両親は商業の道を希望したが、商業学校に合格せず、映画の仕事をしたという本人の希望により、23年松竹蒲田撮影所に入社する。当初の小津の仕事は撮影助手で、その後助監督となり、27年監督修行として書いたシナリオが城戸所長の目にとまり監督昇進を果たす。

初監督は小津唯一の時代劇「懺悔の刃」(1927年／映画は現存せず)。当時の作品で現存する最も古いものは、最初の長編である「若き日」(1929年)。1930年代、小津は松竹蒲田の特徴である「小市民映画」の第一人者と見なされており評論家からの評価も高かった。サイレント映画の名作「生まれてはみたけれど」(1933年)でキネマ旬報ベストワンを獲得するが、興行的にはなかなか成功しなかった。

37年小津は応召し、中国戦線に向かう。39年除隊。「戸田家の兄妹」(1941年)が小津監督作品では初の大ヒット作となる。43年軍報道部映画班に徴用されシンガポールに向かう。終戦後収容所生活を送るが、46年に帰国。戦後最初の作品は「長屋紳士録」。

野田高梧との共同脚本による「晩春」により小津監督独自のスタイルが作り出される。映画評論家・佐藤忠男は「日本映画史」の中で「世界にも類のない小津の厳格で独創的な技法は「晩春」で完璧の域に達し、以後、一作ごとにさらに磨きを加えられていくことになる。」と記している。以後「麦秋」が芸術祭文部大臣賞受賞。名監督の評価を確立する。「東京物語」は、英国映画協会による「監督が選んだ映画史上最良の作品ベストテン」において2012年ベストワンに選出されるなど、世界中の映画監督に愛される作品となった。58年紫綬褒章を受章。59年には映画人としては初めて日本芸術院賞を受賞。60年芸術選奨文部大臣賞受賞と日本を代表する巨匠として評価される。63年60歳の誕生日に膵臓癌で死去。死後勲四等旭日小綬章が追贈された。

小津安二郎は日本映画史を代表する監督であり、同時に世界の映画人に尊敬されている巨匠なのである。

自主上映のお知らせ

5月31日(日) 福岡映画サークル協議会第3回例会

上映作品：「フィッツカラルド」 ①11:00～②14:10～

料 金：一般当日1,400円／一般前売り1,200円

シニア当日1,000円／中・高生当日800円

主 催：映画サークル協議会 TEL.092-781-2817

※詳細については、直接主催者にお尋ね下さい。

交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

市営地下鉄
西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス

●博多駅、天神、西新から福岡タワー南口下車徒歩5分

●藤崎から福岡タワー南口下車徒歩5分

◎所要時間は交通事情により異なります。バス運行時間、目的地までの所要時間の目安、またお近くのバス停からのご利用については、西鉄お客様センター(電話 0570-00-1010)に直接お問い合わせください。



Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-la
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)：092(852)0600

Fax:092(852)0609

福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ ホームページ

うえぶシネラ <http://www.cinela.com>

第353回プロムナードコンサート

◆◆◆月に一度のお昼休みのクラシックコンサート◆◆◆

日 時：2015年 5月22日(金) 12:00～13:00 ※入場無料

場 所：西日本シティ銀行本店1Fエントランスホール(福岡市博多区博多駅前3-1-1)

曲 目：ベートーヴェン作曲 弦楽四重奏曲第14番嬰ハ短調 Op.131 他

演奏者：福岡ハイドン弦楽四重奏団

主 催：西日本シティ銀行／公益財団法人福岡文化財団(TEL 092-473-6777)

